



病の元は心から

親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て「ともに楽しみたい」と思召され、人間をお創りになられました。しかし人間は、親神様より陽気ぐらしをさせたいがために与えられた心の自由を使いあやまり、我さえ良ければ我が身思案にとらわれ、心にほこりを積んできました。おふで、さきに、なにもやまいとゆうてさらになし心ちがいのみちがあるから（第三号95）とお示し下さるように、もともと病があ

るのではなく、親神様の思召にそわない心違い（ほこり）が病の元になります。したがって心のほこりを払うことによって、病の根は切れ、病まず弱らず、常に元気に、ご守護をくださるのです。私たち人間は親神様より陽気ぐらしへ導かれている過程にあります。そして、病を通して人間が心を入れ替え、生きる目的である「陽気ぐらし」ができるようにとの親神様の温かい親心があふれています。

本島大教会布教部（成）

